

(シンポジウム「がんプロフェSSIONAL養成基盤
推進プラン『都市型がん医療連携を担う人材の実践
的教育』の成果」Part 1) 序文

著者名	唐澤 久美子
雑誌名	東京女子医科大学雑誌
巻	87
号	1-2
ページ	13-13
発行年	2017-04-25
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031657

doi: http://doi.org/10.24488/jtwmu.87.1-2_13

第82回東京女子医科大学学会総会
シンポジウム「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』の成果」Part 1

日 時：平成28年9月24日（土）13：30～15：40

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

共 催：文部科学省事業がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

基調講演

座長（東京女子医科大学医学部放射線腫瘍学教授・講座主任）唐澤久美子

1. がん専門放射線治療技師・医学物理士養成の取り組み（駒澤大学医療健康科学研究科教授）吉川宏起
2. がん看護専門看護師養成の取り組み（東京女子医科大学看護学部成人看護学教授）飯岡由紀子
3. 小学校高学年へのがん教育—帝京サマースクールについて—（帝京大学緩和医療学講座教授）有賀悦子
4. 都市型がん医療のニーズを探る—がん患者のサバイバー調査から見えてきたもの—
（帝京大学内科学講座腫瘍内科准教授）渡邊清高
（杏林大学腫瘍内科学講座教授）古瀬純司

序 文

（東京女子医科大学医学部放射線腫瘍学教授・講座主任）唐澤久美子

がんはわが国の死因の第1位で国民の半数以上が罹患する疾病であり、がん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の養成が急務である。「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は文部科学省が、がん医療従事者の養成を支援するプランで、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的として、平成24年度から実施されており、全国で15拠点が選定されている。東京女子医科大学は、帝京大学、杏林大学、駒澤大学との連携で、「Tokyo Oncology Professional 都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」として教育拠点到選定されている。

東京都では、がん患者の生活環境や要望は大きく異なる上に急速に高齢化が進行し、急性期から在宅医療までの地域がん医療連携の効率化が急務であるが、地域医療のコーディネート能力のある医師や看護師は極めて不足しているのが現状である。4大学

は今までもがん医療に携わる医師、看護師、診療放射線技師、医学物理士を養成してきたが、本事業では4大学の総力を連携し、魅力的かつ実践的な教育プログラムを連携して行い、患者・家族の視点に立ちながら、質・量ともに多様化する都市型がん地域治療を担うことのできる次世代のがん医療人リーダーの養成を目指している。

今年は、その最終年度であり、皆様にわれわれの取り組みの内容をご説明し、成果をご報告させていただきたいと考えた。多くの取り組みがある中で、本シンポジウムでは、駒澤大学でのがん専門放射線治療技師・医学物理士養成の取り組み、東京女子医科大学でのがん看護専門看護師養成の取り組み、帝京大学での小学校高学年へのがん教育の取り組み、連携3大学医学研究科の学生と教員によって行われた都市型がん医療のニーズを探るがん患者のサバイバー調査のアンケート結果をご紹介した。

本教育プランががん患者さんとご家族にとって有用であることを願っている。

Kumiko KARASAWA [Department of Radiation Oncology, School of Medicine, Tokyo Women's Medical University]:
Preface for Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer by Tokyo Oncology Professionals:
Practical Education of Human Resources in Urban Cancer Medical Collaboration